



こどもたちの姿



少子化の現状

わが国の合計特殊出生率※は、昭和50年に2.0を割った後、ほぼ一貫して低下し続け、平成14年には、1.32となり、現在の人口を維持するのに必要な2.08を大きく下回っています。本村の合計特殊出生率も国の数値より高率で推移しているとはいえ、平成2年の1.85から平成12年の1.53へ0.32ポイント減少し、低下傾向を示しています。また平成15年4月1日における人口は、5,944人で長期的にみると増加傾向を示していますが、国勢調査では平成7年に比べて平成12年ではやや減少しています。

※合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率をすべて足した数字で、一人の女性が一生の間に出生する子供の平均の数を表しています。

年少人口(0～14歳)と高齢者人口(65歳以上)の割合の推移

年少人口(0～14歳)と高齢者人口(65歳以上)の推移をみると、年少人口は徐々に減少し平成2年から平成12年の10年間に4.1%減少しています。一方、高齢者人口は5.4%の増加を示しています。

また、住民基本台帳による高齢者人口は平成11年4月1日から平成15年4月1日の間に241名の増加が認められます。それに対して年少人口は997名から898名へ99名の減少となっています。



資料:国勢調査



資料:国勢調査



資料:住民基本台帳(各年4月1日)

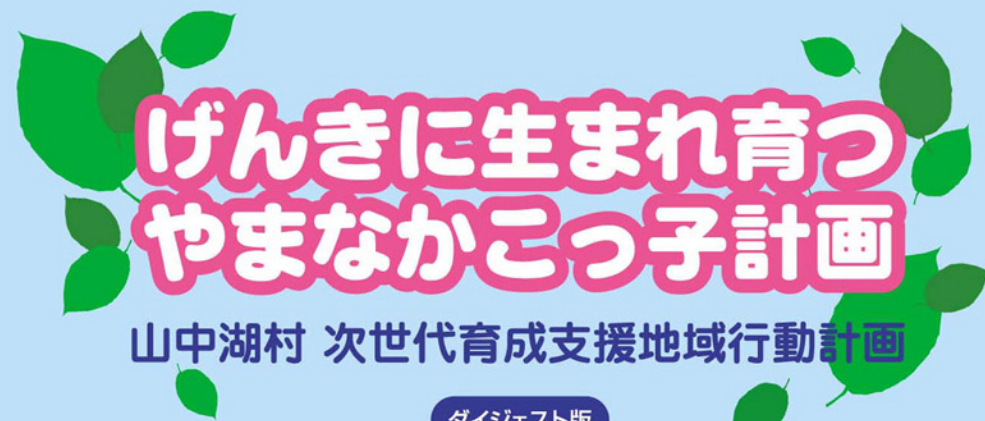


資料:人口推計ワークシート

少子化の影響

少子化の進行は、子どもが豊かな人間関係を築いていく機会や場を減少させ、ふれあいを通じて培われる思いやりなどの人格形成を阻害するおそれがあり、また年金などの社会保障費用にかかる現役世代の負担の増大、若年労働力の減少による社会の活力の低下などの影響が予想されます。

こうした状況を踏まえて、子ども自身が健やかに成長し、両親が子育てに喜びを見出し、安心して子どもを生み育てることのできる地域社会を形成していくことが必要です。



山中湖村 次世代育成支援地域行動計画

ダイジェスト版



山中湖村